

令和2(2020)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
 実績報告書(プログラム実施報告書)
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)
 (ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」

課題番号：20HT0087

プログラム名：君も考古学の最新研究に挑戦！縄文土器を研究する・年代を測る



所属 研究 機関	名称	中央大学
	機関の長 職・氏名	学長 福原紀彦
実施 代表者	部局	文学部
	職	教授
	氏名	小林謙一

開催日	1回目 8月29日(土)・2回目 10月10日(土)(受講者は原則2回とも参加)
実施場所	中央大学多摩キャンパス
受講対象者	中学生
参加者数	1回目 11名・2回 10名(1名当日発熱のため辞退)
交付申請書に記載した募集人数	10名

プログラムの目的

これからを担う学童に人文科学の面白さを認識してもらう。人文科学の中にもさまざまな分野があり、考古学は自然科学的方法と歴史を探る人文科学的考え方との両方が重要であることに、体験を通して触れて貰う。申請者が科研究費で試料としている本物の遺物を、自分の手で触り作業することで、郷土に残る考古資料の魅力を感じ、歴史や考古学への興味関心を高めてもらう。古くさいイメージの考古学が最新科学の成果を用い、科学の分野もその要求に答える形で進化していることを実感してもらい、科学に対する関心を深める。さらに、考古学の研究手法の体験を通して、自ら課題を見つけ考える力を養うことが期待できる。



みんなに調べてもらった縄文土器



土器内面に調理の時のお焦げがびっしりついている

プログラムの実施の概要

第1回(8月)に遺跡から出土した縄文土器に触れてもらい、スライドも用いて基礎的な知識を伝え、中学生に、どんな土器が、どのように使われたのか考えてもらった。次ぎに遺跡で出土した土器片から年代測定用に付着炭化物試料(ススやお焦げ)を採取してもらい、自分で観察事項などを資料カードに記載してもらった。



第1回 説明の様子



第1回 縄文土器に焦げついた炭化物を掻き取る

第2回(10月)に、土器の拓本作業を行ったうえで、子どもたちが土器からわかる縄文時代の暮らしのイメージなどについて意見を出し合い、縄文時代・土器について具体的に考えた。採取したお焦げを使った年代測定のワークショップとして、測定自体は科研共同研究機関でおこなっていただいたことについてはスライドを使って説明し、その測定結果から実年代を算出する過程を、実際にパソコンに入力したプログラムで計算してもらい、何年前か、それぞれ年代毎にどのように違うか検討をした。



第2回 土器文様を拓本に写し取る



第2回 土器について調べる